



瀬田の丘裏庭版

主任司祭から瀬田の兄弟姉妹へ

主任司祭 小西広志 神父



創刊 2022年

編集協力・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部 東京都世田谷区瀬田 4-16-1



カトリック歳時記



主の公現

伝播していきました。しかし、そ

「公現」という言葉は、ギリシア語で神の顕れ、顕現を表すエピソードに由来します。古代では立派な人の登場、例えば支配者の即位や都市の訪問の際にもこの言葉が使われたそうです。まさに、馬小屋に眠る幼子イエスこそが、この世に顕れた救い主に他ならぬのです。

公現祭は四世紀の前年からエジプトで祝われていたと言われていきます。ちょうど、異教の祭儀が一月六日前後に執り行われていたことも公現祭が成立した背景にあるだろうと考えられています。主の洗礼、主の降誕、カナの婚礼といった主の秘義の数々を祝う祭りとしてエジプトで形成され、しだいに東方教会全体に広まっていったようです。四世紀末から五世紀にかけて西方教会にこの習慣は

こでの公現祭は、イエスの洗礼に加えて三博士の礼拝（マタイ2・1・12）を諸国民への救いの訪れとして祝う形式へ変化していったようです。

中世を通じて公現祭に関する信仰心が様々な形で表現されていきました。まず、公現祭の前に徹夜祭が祝われ、降誕祭後八日間にわたって独自の典礼が執り行われ、最終日には主の洗礼を祝うようになりました。また、三博士の名前が伝承と共に生まれていきました。カスパール、バルタザール、メルキオールです。メルキオールは幼子イエスに黄金を献じた老人、バルタザールは没薬を献じた壮年、カスパールは乳香を献じた青年として表現されました。それぞれ、ヨーロッパ人、アジア人、アフリカ人であったとされました。そこでカスパールは黒人とし

て表現されるようになっていきました。このように、世界中のすべての人が救い主である幼子イエスを礼拝するのだという信仰心が表現されていったのです。

東方の三博士となつていますが、マタイ福音書によれば、東の方からやってきた占星術の学者（マゴイ）たちです。これはイエスの時代にはペルシャの宗教家、特に星占いや魔術師を意味していました。時代が下つてマルコ・ポーロは、ペルシャのある町に三博士の墓があると記しています。この墓は現存していませんが、自分の地域のキリスト教を伝えたのは三博士であると信奉するキリスト者はイランのある地方にはいるそうです。また、三博士の墓がヨーロッパにあるとする伝承も生まれ



ていきました。それによれば、ドイツのケルンに墓が移され、ケルンの大聖堂は三博士に献げられたものとなりました。

中世の公現祭では、星の導きで旅をした三博士を表現するような典礼が生まれていきました。公現祭のミサの奉納行列で簡単な劇を行うのです。この習慣は広く親しまれ、現在でも公現祭のミサには三博士の扮装をした子どもたちが、手に手に献げ物をもって奉納行列に加わることがあります（イタリアやドイツ、ポーランド）。またイタリアのローマでは、公現祭の前晩にベブアーナという魔法使いの老婆がほうきに乗ってやって来て、良い子にはお菓子やキャンディを、悪い子には石炭を靴下に入れておくという言い伝えがあります。公現祭には黒装束の魔法使いがローマの町に登場します。

日本では、主の公現の祭日は一月二日から八日の間の主日、すなわち日曜日に祝うことになっています。

秋元神父さまのこと



二〇二二年二月一九日に、わたしたちの兄弟・マキシモ・秋元春雄神父さまが帰天しました。瀬田教会の主任司祭を務めたこともある神父さまなので、ご存知の方も多いことでしょう。少し、思い出を語りましょう。

秋元師は一九三三年に東京都で生まれたそうです。東京芸術大学で彫塑を学んでいたそうですが、在学中に結核となり、清瀬のベトレヘムの園病院に入院したそうです。そこでの療養中にキリスト教と出会い、信仰の道へと進みました。大学の卒業制作で矢吹八郎と共に十字架の道行きのレリーフを作成し、それが現在も上野毛教会に掲げられています。後に矢吹氏はアニメ監督として名を馳せま

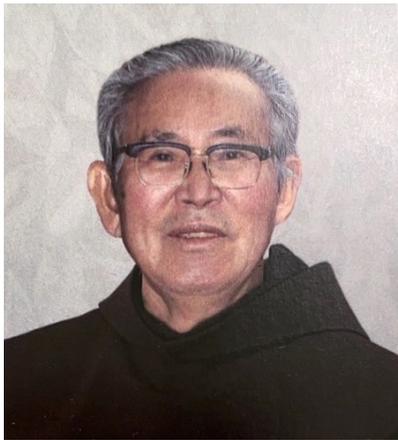
す。芸術家の秋元師ですから、不思議

な魅力の持ち主でした。「アツキー（秋元師のあだ名）と一緒に山歩きすると面白いよ」と語ってくれたのは横浜教区の神父さんでした。あるとき、旧須坂教会を訪問したら、そこにいた秋元師が一緒に山歩きしようと誘ってくれたそうです。ゆつくりと歩く姿は風景に溶け込んでいるかのようなたたさうです。そして、名もない花を見つけてはじつと立ち止まってしげしげと眺めていたそうです。まるで山の住人のようだったと話

してくれました。

秋元師は小さな生き物や自然を大切にしました。いのちを大切に

する彼は、人間も大切にされる神父さんでした。日本カトリック正義と平和協議会ニュースレターである「JP通信」の八五号（一九九八年）には「長野オリンピックの実態」と題する文章で、「オリンピックという華やかな衣を纏って悪に長けた人たちが暗躍する」という出だして長野オリンピックのために自然や弱い者や外国人労働者が排除された事実を綴っています。「自然と調和した長野オリンピック」という大会のうたい文句は、「自



【略歴】

1933年3月13日 東京都に生まれる
1963年3月21日 着衣
1964年3月23日 初誓願
1967年3月27日 荘厳誓願
1971年3月13日 司祭叙階
2022年12月19日 帰天

享年 89

然を破壊した長野オリンピック」へと変わってしまったと主張しています。わたしは、神学生時代にこの一文に触れて、普段の飄々とした風体とは違う、厳しく世を問いただす師を見つけたような気がしたので覚えています。

秋元師が瀬田教会の主任司祭として派遣されたのは一九七七年でした。ちょうど教会が設立二五周年のお祝いの年でした。一九八四年に離任するまで、大活躍の日々だったようです。秋元師の導きで洗礼をお受けになった方はたくさんいます。青年たちへの関わりを大切に師の周りには多くの若い人々が集まりました。アントニオ会館の司祭室は青年たちで賑わっていました。師が企画したフィリピンでの体験学習に多くの青年たちが参加しました。多感な彼らにとつて、貧しくもたくましく生きるフィリピンの青年たちとの出会いは人生の大きな財産になったと思います。

教会設立二五周年の記念誌に次のような一文を寄せておられます。

「このように第二バチカン公會議以来、教会の『今日化』のために、正しい回心、(アイノタメニメタノイア)を特別めまぐるしく、私たちは、させられた思いがする。うちの教会も『正しい今日化』に導いて頂くよう聖霊に祈り、皆で助け合つてすすんで行きましょう。」

もう四十五年も昔の文章ですが、今の時にも通じるような一文です。秋元神父様、お世話になりました。どうぞ天国から瀬田の教会を応援し続けてください。



カリスト神父さまのこと



二〇二二年の暮れも押し寄せました。二月三〇日、わたしたちの兄弟・カリスト・スイニー神父さまが帰天なさいました。一九二九年生まれの九四歳でした。

カリスト師は一九七五年から二年間、瀬田教会の主任司祭でした。一九五六年にアメリカのニューヨークから来日した師は、バチカン大使館で秘書の仕事などをしました。とても日本語が堪能で、ゆっくりですが正確な日本語で話されました。フランシスコ会が日本管区になる以前、フランシスコ修道

会日本連合会の会長を務めました。瀬田・聖アントニオ修道院の院長の職も担いました。正面の大きな門を取り払ったのは、「開かれた修道院」を文字通り実現させようとの願いだったと先輩たちから聞いたことがあります。

アントニオ会館が建設されたとき、建物の祝福をしたのがカリスト師でした。一九七四年一月一七日のことです。あれから四八年を経て、アントニオ会館のリ



フォームは終了しました。

わずか二年間の主任司祭でした
が、師は信徒の皆さんに積極的に
関わりました。当時は行事がある
たびにスナップ写真を撮るのが常
でした。ひとときわ長身の外人さん
が集合写真の隅っこにニコニコと
笑顔で映っていて、師を探し出す
のに苦労はありません。

師は家庭集會を頻繁に催してい
たようです。教会の共同体を四つ
の地区に分けて、毎週水曜日の夜
に信徒の方のご家庭で集いを行っ
ていました。「祈りと信仰体験の
分かちあい、家庭や地域社会にお
ける信仰の問題を話し合うよい
機会となっています」(『会報』9
号、一九七六年四月一五日)。

一九七七年の春、三ヶ月間の休
暇旅行から戻ってきたカリスト師
は異動を命じられ、新しく秋元神
父さまが主任司祭として札幌から
着任しました。そして、師は瀬田・
聖アントニオ修道院の院長職に専

念します。今思うと、これは突然
の異動人事発令の感は否めませ
ん。「何があつたんだろう？」と
いぶかしく思えるのですが、この
頃の事情を知っている方々はフラ
ンシスコ会の兄弟たちも信徒の皆
さんもすでに天国にいらつしやい
ます。

『会報』には主任司祭として最
後の巻頭言を寄せておられます。
「見人」と題されたその文章には、
羽田空港のロビーでのヒューマン
ワッチングを楽しんだことが記さ
れています。文末の部分を引用し
てみましょう。

「その様子は何となくイエズス
が教えられた、放蕩息子ほうとうむすこの帰りを
待つお父さん」を思わせた。もし
イエズスが出迎えるの人たちの中
に
おられるとすれば、きつとたとえ
話の父親の心で、税関から出てく
る一人ひとりの顔を大事な大事な
人のように見つめられるにちが
いなく、ふと思った。イエズスは
あの人たち一人ひとりのために生

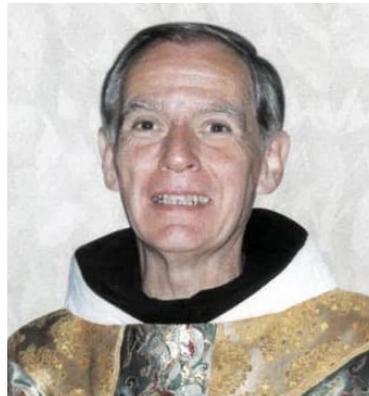
まれたのだから。一人ひとりのた
めに重い十字架の下に倒れても又
立ち上がつてカルワリオへ向かわ
れたのだから。一人ひとりに完全
な喜びを得させようと復活され
たのだから。このような心をもつ
お方は、私のように面白半分おもしろ半分に人
の顔を見たり、あるいは関係がな
いと思う人の顔はすぐに忘れたり
するようなことは決してなさらな
いにちがいない。もしこゝにおら
れたならば：

しかし事実、イエズスは一緒に
おられる。復活されたのだから。
今日も羽田空港のロビーで、一人
ひとりの顔を見て、いつくしんで、
心臓が破裂はれつしそうな程、かれらを
愛しておられる」(『会報』12号、
一九七七年四月一〇日)

このように師は日常の出来事を
通して祈る方であり、ご自分の内
面と向き合う祈りをする方です。
主よ、この兄弟に永遠の安息
をお与えください。

【略歴】

1928年3月26日 アメリカ・
ニューヨーク州に生まれる
1949年8月12日 着衣
1950年8月14日 初誓願
1953年8月14日 莊嚴誓願
1953年9月18日 司祭叙階
2022年12月30日 帰天
享年 94



絵画に寄せて

フョードル・ブルーニ、もしくは
はフィデリオ・ブルーニ(1909-
1975)は、イタリアのミラノにい
たロシア人の画家です。大きく分
けて二つのモチーフの作品が残さ
れています。一つは肖像画などを



「聖母子」フョードル・ブルーニ（1858年）

中心にした一九世紀の人々の生活の様子を伝えるものです。単にその人物を写実的に描いただけでなく、人物の内面がにじみ出てくるような肖像画です。目の描写に特徴があります。もう一つは、聖書の一場面を題材にした、ダイナミックな作品です。人間の哀しさ、罪深さが描かれています。

さらに、ブルーニの活動としてイコンがあげられます。西欧世界で活動した彼は、西欧宗教画の技法をロシア正教会での宗教画であるロシア・イコンに取り込みま

す。一八世紀に入つて、ロシアは西欧化していきました。正教会も同様でピョートル大帝（在1682-1725）の時代には教会が宮廷の管理となりました。西欧のバロック様式の宗教画が正教会に入つてきました。ロシア正教の美術と西欧美術の差が縮まっていったのです。伝統的なロシア・イコンも、

いわば上からの圧力で、西欧化が押し進められていきました。こういうったイコンの西欧化の推進役を担ったのが一八世紀半ばに首都ペテルブルグに創設された美

術アカデミーだったのです。通称「アカデミー様式」と呼ばれる西欧風のイコンはロシア各地の聖堂に掲げられるようになりました。現在のサンクトペテルブルクにある聖イサク大聖堂はイタリア人の建築家によつて設計され、数多くのイタリア人の作家たちによつて装飾が施されました。その中にはフョードル・ブルーニの作品もあります。

さて、今月紹介するブルーニの『聖母子』を味わつてみましょう。

聖母マリアと御子イエスを一つの画面に取り組む構図は古代に端を発します。そして、ロシア・イコンの中で様式が確立します。御子イエスを慈しむをもつて眺める聖母のまなざしと、そのまなざしを受ける聖母の手の中の御子のまなざしは決して交差しません。これがイコン様式の大原則です。聖母はイエスさまを愛しますが、イエスさまはすべてのものの救い主ですから、マリアさまと視線を交わしてはならないのです。この交差

しないまなざしのやりとりが、平らな板に描かれたイコンに奥行きをもたらしませう。

ブルーニの『聖母子』は違います。作品を見る側に立つわたしたちをじつと眺めます。そしてイエスさまもほぼおなじ視線でわたしたちを眺めています。ここに今までのイコンにはない奥行きをもたらしています。射貫くような視線はブルーニの特徴といえるでしょう。それは闇から立ち上がってくるような深さを画面に与えます。

また、マリアさまがまどつておられるマントの青色が世界の厳しさを、その下の白い衣装がマリアさまの純潔を、そして少し見える袖口の緋色がマリアさまの愛情を訴えているかのようです。聖母子はこの世の厳しさの中で、マリアさまの純潔からくる一途なところと、燃えるところの温かさのなかで生きているのです。

「アカデミー様式」の作家たちはイタリア盛期ルネサンスを代表する画家、ラファエロの『小椅子の聖母』から着想を得たといわれ

ています。ブルーニの『聖母子』は『小椅子の聖母』に表現された聖母の不安と憂い^{うれ}に満ちた視線を思い出させますし、寒色と暖色を上手に組み合わせ^あせて腕に抱かれる御子へと見る者の関心を向けさせる色使いに似^にていると言えるでしょう。

西欧化されたロシア・イコンの時代は長く続きませんでした。伝統的なイコンが復活し「ビザンティン様式」と呼ばれるようになり、以後、それが主流となりました。明治期に建立^たされた神田ニコライ堂のイコンは「ビザンティン様式」で統一されました。また、西欧化したイコンと「ビザンティン様式」の間で苦惱^くしたのが明治期のイコン作家である山下りん (1857-1939) です。「イコンはおばけ絵」、「イタリヤ画を描きたい」という若き日のりんの願^{ねが}いは、東北のロシア正教会の小さな聖堂に残された聖母子画に表れています。そこには、ブルーニの『聖母子』を思い起こさせるマリアさまの姿が見られます。

主任司祭からのお知らせ

ミサの中ではマスクの着用、手指消毒などお願いします。

アントニオ会館

アントニオ会館のリフォームは終わりましたが、特注の椅子^{はん}の搬入が遅れています。1月末には搬入となりますので、その後からお使いください。

お知らせとお願い

森田貴博氏の「聖フランチェスコ、小鳥たちへの説教」、油彩、2007をいただきました。アントニオ会館^{かざ}に飾ろうと思います。額装^{がくそう}したいので、どなたかご援助^{えんじょ}くださいませんか。

典礼の暦

- 1月 8日 主の公現
 15日 年間第2主日 成人式 信徒総会
 22日 年間第3主日 神のことばの主日
 29日 年間第4主日
 2月 5日 年間第5主日
 12日 年間第6主日
 19日 年間第7主日
 22日 灰の水曜日
 26日 四旬節第1主日

